

今後の見直し内容

事業名	防災展示ホールの活用
事業所管部局	消防局 予防部 予防課
公開審議 における 議論の概要	<p>■防災展示ホールの設置目的について (改革)まず、このホール機能がある「防災センター」がこの場所に立地した経緯から伺う。 (所管)将来を見据えた都市としての防災施策の一つとしての位置づけ。災害発生時には災害活動の拠点として、また平常時には防災に関する啓発・教育・訓練の場としての機能を有している。 (改革)平成15年の総務省消防庁の報告書では、首都圏における広域防災拠点を持つべき機能としての認識を持たれていたが、現在は首都圏のなかでどのような位置づけとなっているか。 (所管)機能としては、本市限りのものにとどまっているが、本庁に設置する防災対策本部が機能不全になった際はバックアップ施設として位置づけられている。 なお昨今市民の防災に関する意識の高まりを受け、このホールは引き続き本市における唯一無二の防災教育施設として事業展開をさせたい。</p> <p>■防災展示ホールの活用策について (改革)防災に対する意識の高まりという点で、ホール運営のなかで具体的にどのような変化があるか。 (所管)やはり地震への備えについての関心が非常に高いと感じる。そのため展示についてもそのことを反映させたところである。さらに今後ということについては、竜巻や突風、また台風や大雨など風水害、特に都市型風水害への対応を強化したいと考えており、この方面の体験設備導入を検討している。 (改革)いわゆる展示コンテンツの充実も重要と考えるが、まずはこのホールの認知度が区によってばらつきがあるとの認識も踏まえて、まずは「訪れる価値のある」施設だということを積極的に市民の皆さんに知っていただくことが最優先と考えるが。 (所管)自治会掲示板へのポスター掲示や市ホームページでの周知、また小学校や幼稚園へのチラシの配布などの認知の向上には取り組んでいる。今後は地域での認知度の差や世代間の差など、諸課題を整理して重点的に広報活動を展開したい。 (改革)幼少期からの防災意識の啓発ということで、学校へのPR等に取り組んでいることは理解できる。一方で、いつ起こるかかわからない災害については、やはり地域の「大人」にももっと知ってもらう必要があるのではないかと。 (所管)所管としては、できる限り幅広い年齢層にも訴求できるよう、つまりどの年齢層の市民が来館しても有意義な体験ができることを基本としている。</p> <p>■今後のホール事業の展開について (改革)さいたま市は「住みやすい」「住み続けたい」まちづくりを標榜している。このことは現在全庁あげて取組を進めているが、防災という分野についても、部局間連携をさらに進めるべきではないかと。 (所管)ホールスペースの問題もあるが、可能であれば、展示内容の連携について積極的に検討していきたい。 (改革)この際、来館を待つだけでなく、送迎なども用意する等のアイデアもあると思う。 (所管)いくつか検討すべき事項はあるが、可能であれば実施したいと考えている。 (改革)少々切り口が変わるが、ホール来館者への副次的な訴求効果として、将来の消防を担う人材の掘り起しなどは考えられないか。 (所管)さいたま市消防には消防音楽隊など、市民と消防を結ぶ役割を担う機能もある。様々な機会を通じて、将来の職業としての消防士が子供たちの上位に位置づけられるようにすることも大切だと思っている。</p>
市民委員の 意見概要	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の審議で防災展示ホールの存在を初めて知った。 ・大人が一人または友人といくには行きづらさがあると思うので、子供をターゲットにして、見学後家族で話をする機会を設けるような教育プログラムを連携でつくったらよいのではないかと。 ・学校の授業に取り入れることも良いと思う。 ・風水害体験施設の設置を期待する。 ・消防車乗車体験など、よりアクティブな体験ができるとういと思う。 ・消火体験は非常によい取組。誰もが適切に初期消火できると、災害は減ると思う。 ・展示ホールを持たずに、広報車で地域に向かうほうが良いのでは。 ・子供のころからの防災意識の醸成はぜひ必要。 ・幼少期からの教育も重要だが、自治会など、地域へのリターンを考えた展開も必要。

今後の見直し内容

<p>市民委員の 意見概要 (続き)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学生のみならず、災害時にボランティアとして活動してくれる年代の人々にも大いに体験してもらいたい。 ・自治会はもちろんだが、学校PTAでの団体体験があっても良いと思う。 ・小学校107校中18校しか活用していないというのは明らかに少ない。 ・地域によって認知の差があることについてしっかりと分析して対策を打つ必要がある。 ・自主防災組織以外でも、日ごろ火を使う頻度の多い飲食店の参加を促すことも有効なのでは。 ・社会人(新入社員)の教育の場としての活用もできるのでは。 ・防災は広く行政の分野をまたがるので、連携して協力すべき。
<p>傍聴者の 意見概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どものころから防災を認知することが重要と思われる。来館者状況を把握するために、小学校の社会見学利用等も指標としてはどうか。 ・施設が有効に活用されることを期待する。

◎公開審議結果などを踏まえた今後の見直し内容

- 全市的に来館促進に向けた施策を実施します。
- 学校における防災教育の一環として本ホールを取り入れてもらえるよう、教育機関に要請します。
- 関係部局と連携して防災力の向上に努めます。

■全市的に来館促進に向けた施策を実施します。

災害に対して適切な行動をとるには、災害についての正しい知識と日ごろからの備えが必要です。また、本ホールでの体験は、防災について考えるきっかけになり、「自助」精神の醸成や防災意識の高まりが期待できることから、より多くの市民の皆様の本ホールへ足を運んでいただく必要があります。ついては、現在の来館状況を分析して、地域防災の要となる自治会や自主防災組織をはじめとした市民の皆様が来館しやすくするため、送迎バスの運行や他の方法について様々な角度から検討するとともに、都市型風水害への対応についても体験設備の導入を検討するなど、来館者促進に向けた施策を実施します。

■学校における防災教育の一環として本ホールを取り入れてもらえるよう、教育機関に要請します。

本市の学校における防災教育では、目指す子ども像を「災害時に自助・共助が主体的にできるさいたま市の子ども」と描かれています。また、「自助」の目標として、「災害時における危険を認識し、日常的な備えを行うとともに、状況に応じて的確な判断の下に自らの安全を確保するための行動ができるようにする。」と明記されています。本ホールは、本市が目指す子ども像を実現するためのツールとして有効な施設であり、幼少期からの防災教育の必要性についても、市民委員の皆様からの心強い肯定的な意見をいただきましたので、教育機関に対し防災教育の一環に取り入れてもらえるよう要請してまいります。

■関係部局と連携して防災力の向上に努めます。

本ホールの存在については、市報から発信したり、消防音楽隊の演奏やイベント開催時に広報活動を実施してきたところですが、今回の公開審議においても市民委員の方から「防災展示ホールを知らなかった」との意見をいただいたことから、これまでの広報媒体を活用した広報に加え、直接、市民の皆様と話ができる機会を逃さずに、関係部局と連携した情報の発信を行い、関係部局のツールを活用した展示も検討するなどして、認知度の向上に取り組むとともに、本市の防災力の向上に努めます。

◎改革担当部局の見解

・防災への意識はますます高まっており、地域防災力の強化は今後さらに重要になってきます。その意味で、地域の防災力を担う市民を対象とした防災に関する啓発・教育施設として位置づけられる本ホールの役割は極めて大きいと考えます。

・防災展示ホールはその期待に最大限に応えていくため、防災というものがあらゆる行政分野にまたがるものであることを踏まえたうえで、危機管理という視点も含めて部門を超えた連携によるホールの在り方を積極的に検討し、実践していく必要があります。